



「春にわれ乞食やめても筑紫かな」 河合曾良

河合曾良は慶安二年（一六四九）、信濃国（現在の長野県諏訪市）の生まれ。江戸中期の俳人。松尾芭蕉に師事し、その寵愛を受けた高弟であり、『奥の細道』の旅の随行者としてよく知られる。

幕府の西海道巡検使の一人として九州を廻っていた途上で病を得て、宝永七年（一七一〇）五月に壱岐勝本町の中藤家で客死したといわれる。能満寺の中藤家墓地に墓碑がある。

春にわれ 乞食やめても 筑紫かな

筑紫の旅への曾良の強いあこがれを詠んだこの句の碑は昭和九年、曾良二百二十五回忌を記念し、地元俳人によって勝本町城山公園内に建立された。